

景況調査

報告書 NO. 43

平成21年 4月～6月 実績
平成21年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成21年度第1四半期(H21. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成21年7月

2. 調査対象 (1)対象地区 蒲郡市内

(2)対象(回答)企業 117[112企業、5団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	44 (3)	10 (1)	20 (1)	26	9	8	117 (5)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で見ると△70.1、前期実績(1～3月・△75.9)と比較すると5.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比についても△49.6、前期実績(1～3月・△78.5)と比較すると28.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で見ると△39.4、前期実績(1～3月・△78.5)と比較すると39.1ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。また、**収益DI値**については△52.1、前期実績(1～3月・△76.8)と比較すると24.7ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H21.7～9月)見通し**については、△35.9、前期実績(1～3月・△59.9)と比較すると24.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。

「**製造業**」のうち食料品は、国内食品業界は、原料調達コストの増大や海外製品との価格競争により経営環境は厳しさを増している。織物は、主力商品であるジャカードカーテンについては、稼働率は35%前後で推移。白生地織物についても、仕事量は少なく稼働率は70%前後である。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく、空台が目立っている。漁網・ロープのうち、漁網関係は漁網関係は引き続き受注低迷状況である。当座のコマ切れた的な受注により何とか稼働を維持している。繊維ロープは、生産・販売量ともに前年に比して減少が続いている。鉄工のうち、工作機械関係は、大幅な受注減に各社とも見舞われ、受注活動に必死に取り組んでいるが、なかなか厳しい。以前の不況時の受注に比べ、今は異常である。自動車部品関連は、自動車はエコカー減税に期待大である。臨時休業も5月から通常稼働となり、その分生産増となり、一息ついている現状である。化学・プラスチックのうち、化学工業は、原材料価格が下がった影響もあり、僅かだが利益が回復してきた。プラスチックは、売上が落ち込んだ前期と変わらない売上の状況ではあるが、回復の兆しが見え始めた感もある。「**建設業**」は、土木工事では、公共工事の端境期でもあり厳しい状況が続いており、低調に推移している。建築工事においても、同様に景気悪化の影響による需要停滞、請負単価低下により景況感も悪化しており、収益面でも苦しい状況にある。「**卸売業**」のうち繊維卸は、産業資材関連：自動車関係の急激な落ち込みが回復していないため、大変厳しい状況が続いている。寝装関連：夏物需要期に入ったが、大手GMSを筆頭に価格ダウンの店が多く、売上額・利益とも厳しい状況である。インテリア関連：年間を通じ4月期は最も売上が期待される需要期であるが、低調に推移した。衣料関連：消費低迷不振の影響がアパレルから既存カーテンの全てに及んでいる。実際安いものしか売れない状況にて、商内そのものが停滞

している。「**小売業**」は、顧客の買い控えが続き、業界全体の売上は減少した。しかし、5月・6月に入ってから定額給付金やプレミアム付商品券の発行などによって地域内の消費が拡大され、客数は少し戻ってきた。飲食は、団体客は会社の小さいグループ単位の懇親会等が多くなった。石油は、SS業界においては、コスト上昇による採算性の悪化が進む中、低マージンであるセルフ化の進行により販売競争は激化している。「**サービス業**」のうち旅館関係は、今期の現況として、一番影響が大きかったのが新型インフルエンザであった。「**運輸通信業**」のうち旅客・水運は、海運関係：前期に比して輸出・輸入・国内品の荷動きについても更に減少した。バス業界関係：企業関係の旅行・輸送が不調の中、ツアー参加者数は増加傾向にあり、ニーズに合った商品を提供する必要がある。

設備投資状況は、14事業所(18件)で設備投資が実施され、生産設備・OA機器・車両運搬具・事業用建物・福利厚生が上位にランクした。来期は17事業所(21件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、販売納入先からの値下げ要請、消費者ニーズの変化の対応が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においては依然として、個人消費の低調・急激な円高の進行・設備投資の低調・中国・アジア製品の輸入拡大等の影響を受け、売上DI・収益DI・総合判断DIともに依然として水面下の厳しい状況を示している。当所としては、中小企業の受注売上減にともなう資金繰り悪化に対応するため、緊急金融相談窓口の設置、雇用対策としての教育訓練講座の開催および「新産業創出」を柱とする蒲郡商工会議所アクションプランを更に推進し、地域の振興・活性化を図っていく所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

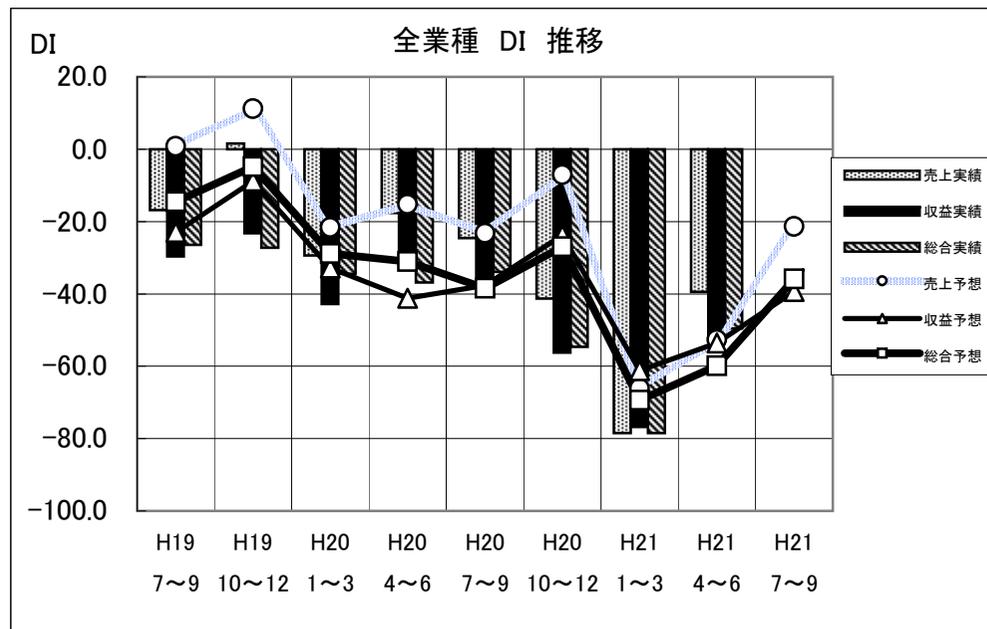
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-75.2	-39.4	-21.4	H20.4～6月実績	-36.8	-17.6	-50.4	-32.0	-45.6	-36.8	-38.4
②製品・商品在庫	-25.7	-22.2	-21.4	H20.7～9月実績	-24.6	-24.6	-47.7	-37.7	-43.8	-33.9	-27.0
③資金繰り	-33.3	-34.2	-27.4	H20.10～12月実績	-64.4	-41.3	-63.6	-56.2	-63.6	-54.6	-69.4
④採算(収益)	-71.8	-52.1	-39.3	H21.1～3月実績	-77.6	-78.5	-73.2	-76.8	-75.9	-78.5	-59.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-36.8	-15.4	-11.1	H21.4～6月実績	-75.2	-39.4	-71.8	-52.1	-70.1	-49.6	-35.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-70.1	-49.6	-35.9								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-16.8	1.6	-29.4	-17.6	-24.6	-41.3	-78.5	-39.4	-21.4
収益	-29.6	-23.2	-42.8	-32.0	-37.7	-56.2	-76.8	-52.1	-39.3
総合	-26.4	-27.2	-34.4	-36.8	-33.9	-54.6	-78.5	-49.6	-35.9

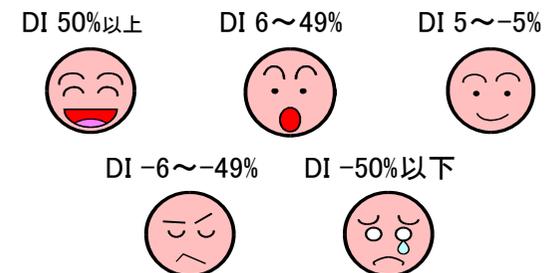
◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
 資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は△18.2、前期実績1～3月期(△81.2)に比して63.0ポイントの上昇。収益DI値は△36.3、前期実績1～3月期(△85.4)に比して49.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△36.3、前期実績1～3月期(△85.4)に比して49.1ポイントの上昇といずれも改善傾向である。
見通しについても、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-81.8	-18.2	-2.3
②製品・商品在庫	-40.9	-31.9	-31.8
③資金繰り	-41.0	-36.3	-29.5
④採算(収益)	-81.8	-36.3	-31.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-22.8	-13.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-79.5	-36.3	-27.3

[食料品]

売上げは前年同期比ではDI値△50.0と悪化の傾向にあるが、前期比ではDI値16.6と個人消費失速による深刻な販売不振にあった前期からは好転の傾向。一方、収益は前年同期比DI値△33.3、前期比DI値△16.6。原材料高の影響により、採算面では依然として深刻さを増しており、総合判断でも前年同期比DI値△50.0、前期比ではDI値△50.0と悪化の傾向にある。

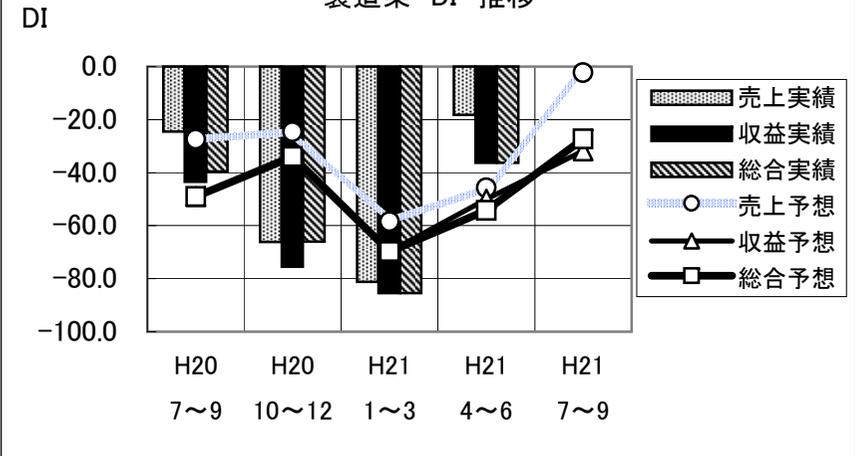
向こう3ヶ月の見通し: 売上DI値、収益DI値、総合判断DI値いずれも△33.3と好転は見込めない状況。国内食品業界は、原料調達コストの増大や海外製品との価格競争により経営環境は厳しさを増しており、さらに相次ぐ産地偽装の影響により、食品表示への不信感の高まりが懸念される。今後、安全性の高い原材料の使用やトレーサビリティへの取り組みにより、消費者へ「安全・安心・健康」を訴求すると共に、いかに消費者ニーズを捉えて価値を訴求できる商品を提供できるかが課題となっている。
(食品部会)

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	16.6	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-16.6	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-50.0	-33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-33.3

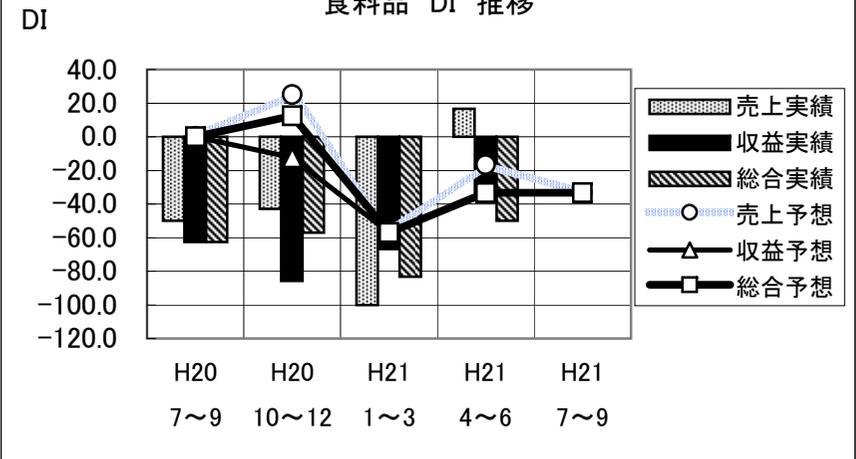
製造業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-24.5	-66.1	-81.2	-18.2	-2.3
収益	-43.4	-75.5	-85.4	-36.3	-31.8
総合	-39.6	-66.0	-85.4	-36.3	-27.3

食料品 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-50.0	-42.8	-100.0	16.6	-33.3
収益	-62.5	-85.7	-66.7	-33.3	-33.3
総合	-62.5	-57.1	-83.3	-50.0	-33.3

[織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、企業により格差はあるが、全体的に仕事量は少なく、稼働率は35%前後で推移している。企業によっては、仕事がなく自然休業となっているケースもある。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後で推移しており、殆どの企業が作業時間を短縮している。特に産業用資材織物の仕事は極端に減少している。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく、空台が目立っている。フル稼働の企業は1社も無い、しかも全ての織物で織工賃は低迷しており、採算面は非常に厳しい状況が続いている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、現状維持が出来れば良いほうで、更に深刻な状況も考えられる。白生地織物は、平織・ドビー織共に仕事量の増加は難しく、現状維持が出来れば良いほうである。先染織物も、仕事量が殆ど無い現状と同じ状況が続くと思われる。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化している。

(繊維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-40.0	-40.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-40.0
③資金繰り	-80.0	-80.0	-60.0
④採算(収益)	-100.0	-60.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-40.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-60.0	-40.0

[漁網・ロープ]

漁網: 漁網関係は引き続き受注低迷状況である。当座のコマ切レ的な受注により何とか稼働を維持している。今後の見通し、今年前半の激しい落ち込みからは抜け出すと思われるが、引き続き厳しい状況にて営業成績の低迷は避けられない。

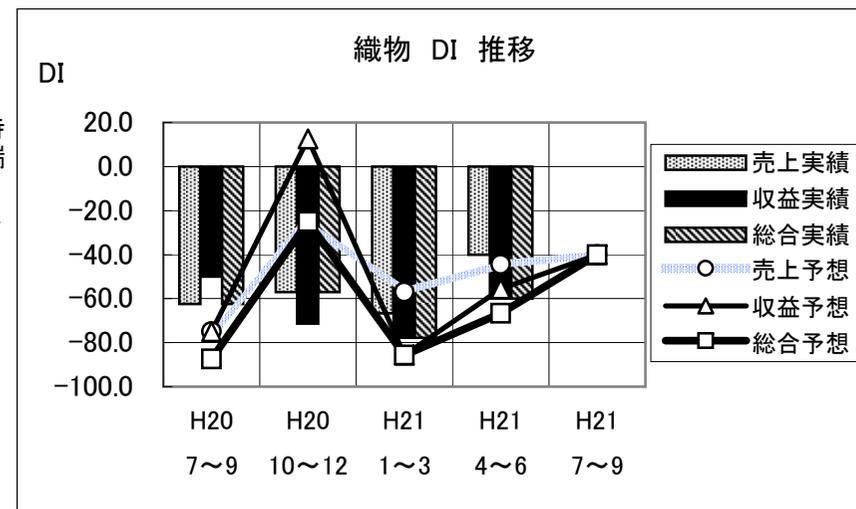
繊維ロープ: 生産・販売量ともに前年に比して減少が続いている。特に建設等陸上部門は半減。また原材料の乱高下に苦慮している。

(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

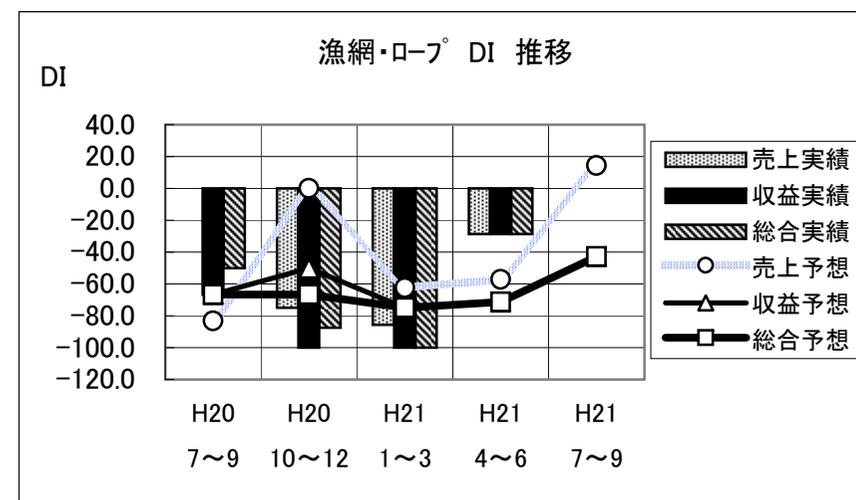
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-28.6	14.3
②製品・商品在庫	-42.9	-42.9	-28.6
③資金繰り	-28.6	0.0	-28.6
④採算(収益)	-85.7	-28.6	-42.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-57.1	-28.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-85.7	-28.6	-42.9



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-62.5	-57.1	-66.7	-40.0	-40.0
収益	-50.0	-71.4	-77.8	-60.0	-40.0
総合	-62.5	-57.1	-77.8	-60.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

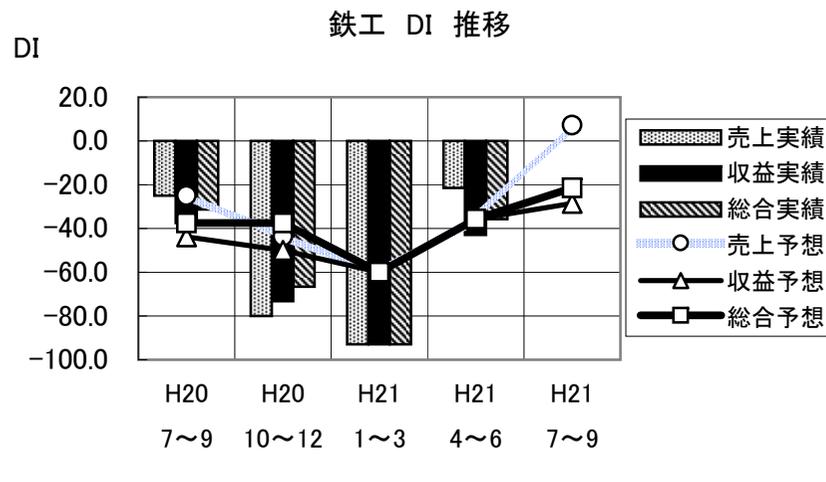
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	-75.0	-85.7	-28.6	14.3
収益	-66.7	-100.0	-100.0	-28.6	-42.8
総合	-50.0	-87.5	-100.0	-28.6	-42.9

[鉄工]

<工作機械関係> 大幅な受注減に各社とも見舞われ、受注活動に必死に取り組んでいるが、なかなか厳しい。以前の不況時の受注に比べ、今は異常である。各社は非正規従業員を解雇し、正規社員まで雇用調整していないが、時間の問題である。受注は2月を底に少し持ち直しているが、水面下では厳しい。今後の見通しは外需依存の日本では、やはりアメリカ頼みである。設備関係では国内・輸出ともプラス要因がなく、トンネルの出口が見えない。(外需の受注が少し増加傾向) <自動車部品関係> 自動車はエコカー減税に期待大である。臨時休業も5月から通常稼働となり、その分生産増となり、各社ともホットしている。トヨタ関連は、雇用調整について非正規社員の解雇で一息している現状である。今後の海外生産は、中国への生産移転がさらに進んで行く。一方その生産設備の投資で機械メーカーは受注増となっている。(中国の受注増) 今後の見通しはアメリカ大手2社の民事再生法適用で成り行きを待っている。(財政出動に期待)トヨタは、アメリカ・中国の自動車販売について来年には元に戻ると期待しているが、ヨーロッパ・日本は3年後を見据えている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-85.8	-21.5	7.2
②製品・商品在庫	-42.9	-42.9	-35.7
③資金繰り	-42.9	-42.9	-28.6
④採算(収益)	-85.8	-42.9	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-14.3	-21.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-85.8	-35.7	-21.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-25.0	-80.0	-92.9	-21.5	7.2
収益	-37.5	-73.3	-92.9	-42.9	-28.6
総合	-31.3	-66.6	-92.9	-35.7	-21.5

[化学・プラスチック]

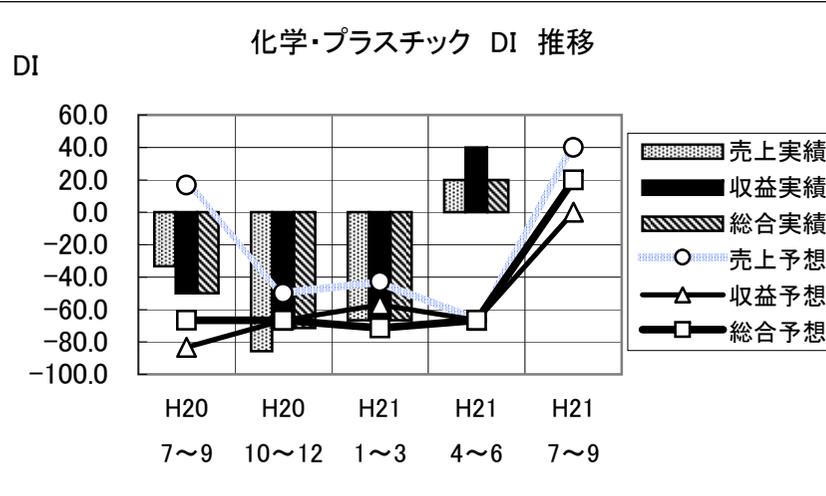
化学工業: 原材料価格が下がった影響もあり、僅かだが利益が回復してきた。今後の見通し、原油価格も上昇してきているので、原材料価格も上がることが予測され、このまま1本調子で回復していくことにはならないと思われる。

プラスチック: 売上が落ち込んだ前期と変わらない売上の状況ではあるが、回復の兆しが見え始めた感もある。今後の見通し、住宅関連の伸びと連動して売上は10%ほど増を見込んでいる。しかし原料価格も10%程上がると思われ、楽観はできない状況である。

(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	20.0	40.0
②製品・商品在庫	-40.0	0.0	0.0
③資金繰り	-60.0	-20.0	0.0
④採算(収益)	-60.0	40.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-60.0	-40.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	20.0	20.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-33.3	-85.7	-66.7	20.0	40.0
収益	-50.0	-71.4	-66.7	40.0	0.0
総合	-50.0	-71.4	-66.7	20.0	20.0

建設業

売上DI値は△80.0、前期実績1～3月期(△44.5)に比して35.5ポイントの下降、収益DI値は△80.0、前期実績1～3月期(△66.7)に比して13.3ポイントの下降、総合判断DI値は△80.0、前期実績1～3月期(△44.5)に比して35.5ポイント下降といずれも悪化傾向である。見通しとしては、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

土木工事は、公共工事の端境期でもあり厳しい状況が続いており、低調に推移している。建築工事においても、同様に景気悪化の影響による需要停滞、請負単価低下により景況感も悪化しており、収益面でも苦しい状況にある。今後の見通し、公共工事では、国や地方公共団体の厳しい財政状況を背景に受注減少傾向で推移するものと思われる。

(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-70.0	-80.0	-20.0
②製品・商品在庫	-10.0	-10.0	-10.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-40.0
④採算(収益)	-70.0	-80.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-10.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-80.0	-40.0

卸売業

売上DI値は△30.0、前期実績1～3月期(△94.7)に比して64.7ポイントの上昇、収益DI値は△40.0、前期実績1～3月期(△68.4)に比して28.4ポイントの上昇、総合判断DI値は△55.0、前期実績1～3月期(△89.5)に比して34.5ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

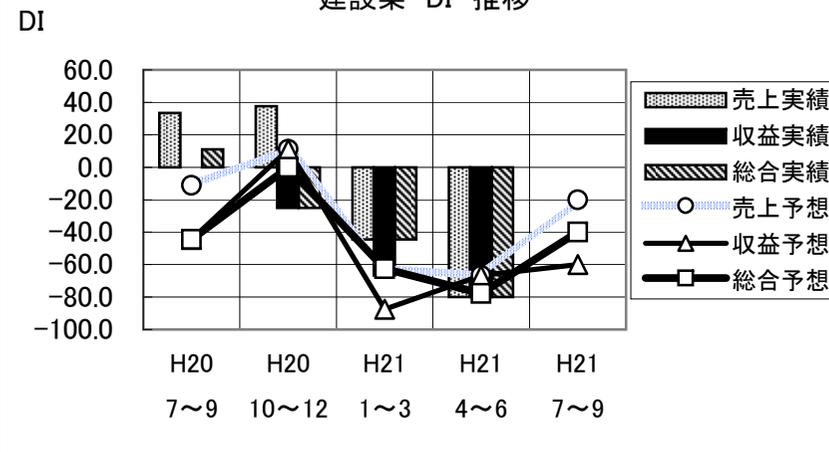
見通しについても、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	-30.0	-35.0
②製品・商品在庫	-45.0	-50.0	-45.0
③資金繰り	-30.0	-35.0	-25.0
④採算(収益)	-60.0	-40.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-10.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-80.0	-55.0	-45.0

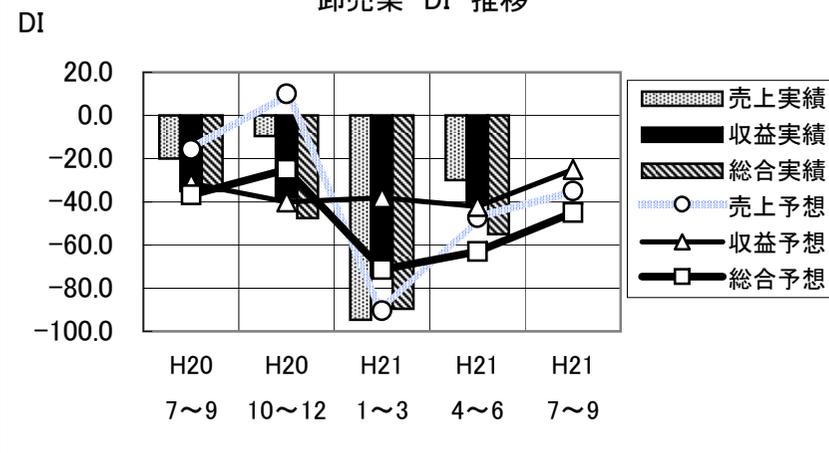
建設業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	33.4	37.5	-44.5	-80.0	-20.0
収益	0.0	-25.0	-66.7	-80.0	-60.0
総合	11.1	-25.0	-44.5	-80.0	-40.0

卸売業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-20.0	-9.5	-94.7	-30.0	-35.0
収益	-35.0	-38.1	-68.4	-40.0	-25.0
総合	-35.0	-47.6	-89.5	-55.0	-45.0

[繊維卸]

産業資材関連: 前期と変わらず自動車関係の急激な落ち込みが回復していないため、大変厳しい状況が続いている。今後の見通し、全体の景気回復が必須条件であるが特に繊維業界の冷え込みは大変深刻にて、今後の個人消費の回復、海外からの輸入品に対抗できる付加価値の模索など課題は多い。

寝装関連: 夏物需要期に入ったが、大手GMSを筆頭に価格ダウンの店が多く、売上額・利益とも厳しい状況である。原材料は落ち着いているが、値下げ要請が続いている。今後の見通し、毎年秋冬物導入期は遅くなり、9月20日すぎが最初の納入のピークになり、夏物は逆に販売シーズンは長くなり8月末までは店頭で販売されるが、売価は下がるので採算的にはどの段階でも厳しいと思われる。

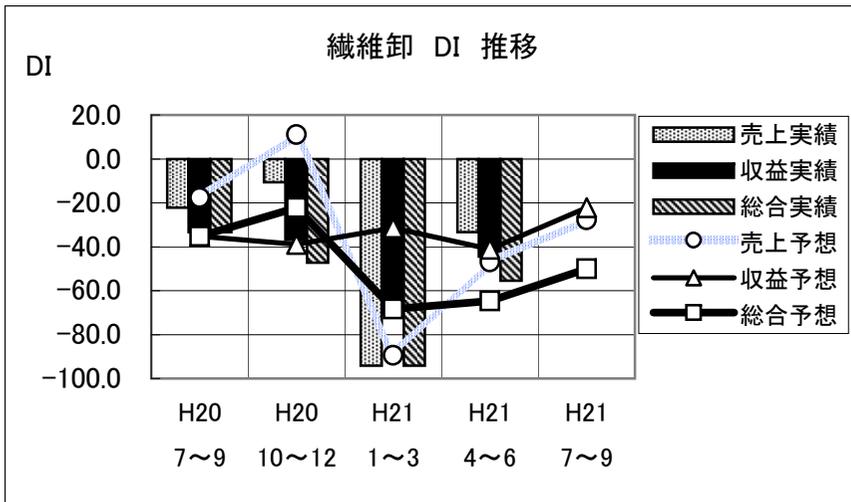
インテリア関連: 年間を通じ4月期は最も売上が期待される需要期であるが、低調に推移した。今後の見通し、オフシーズンのため売上・仕事量ともに減少、特に見本帳の更新も少ないため、新規発注も期待薄の状況である。

衣料関連: 消費低迷不振の影響がアパレルから既存カーテンの全てに及んでいる。実際安いものしか売れない状況にて、商内そのものが停滞している。今後の見通し、消費の回復を期待している。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-72.2	-33.3	-27.8
②製品・商品在庫	-50.0	-55.5	-50.0
③資金繰り	-27.7	-38.9	-27.8
④採算(収益)	-61.1	-44.5	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-38.9	-11.1	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-83.3	-55.5	-50.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-22.2	-10.6	-94.1	-33.3	-27.8
収益	-33.3	-36.8	-70.6	-44.5	-22.2
総合	-33.3	-47.3	-94.1	-55.5	-50.0

小売業

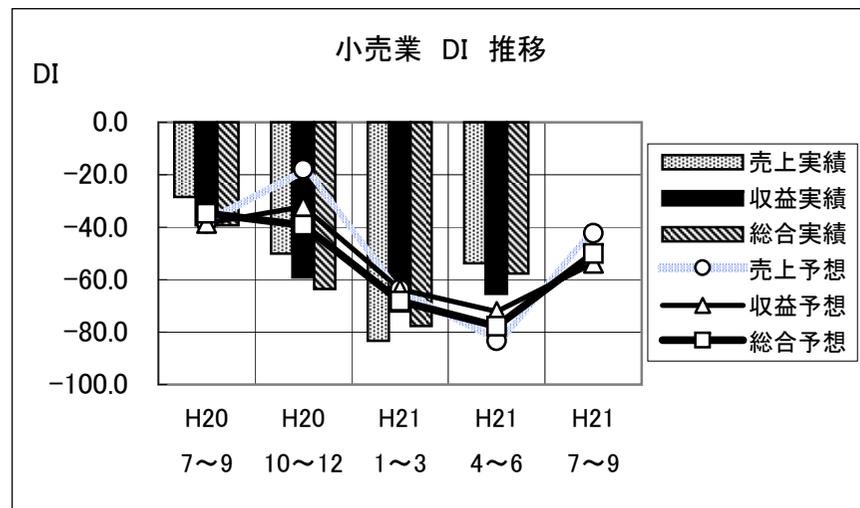
売上DI値は△53.8、前期実績1~3月期(△83.3)に比して29.5ポイントの上昇。収益DI値は△65.4、前期実績1~3月期(△72.2)に比して6.8ポイントの上昇、総合判断DI値は△57.7、前期実績1~3月期(△77.7)に比して20.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。見通しについても、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

厳しい経済状況のため、顧客の買い控えが続き、業界全体の売上は減少した。しかし、5月・6月に入ってから定額給付金やプレミアム付商品券の発行などによって地域内の消費が拡大され、客数は少し戻ってきた。向こう3ヶ月の見通し 今後の景気回復による売上増加に期待したい。また、7月以降も定額給付金やプレミアム付商品券の利用による消費拡大および、お中元などによる売上の増加に期待したい。(商業部会)

小売業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-76.9	-53.8	-42.3
②製品・商品在庫	-7.7	-3.9	0.0
③資金繰り	-38.5	-38.5	-26.9
④採算(収益)	-69.2	-65.4	-53.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.6	-7.7	-11.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-65.4	-57.7	-50.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-28.5	-50.0	-83.3	-53.8	-42.3
収益	-39.3	-59.1	-72.2	-65.4	-53.8
総合	-39.3	-63.6	-77.7	-57.7	-50.0

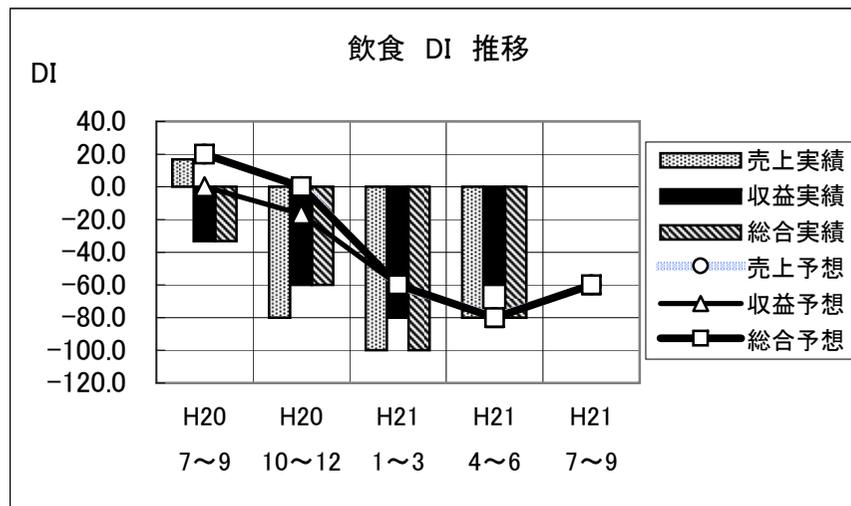
[飲食]

個人ファミリー層の客数は、大型店の影響もあり、多くない状況である。団体客は会社の小さいグループ単位の懇親会等が多くなった。景気の底は打ったと感じている。商工会議所の発行した商品券が飲食店でも使われているので、これから9月まで期待感はある。

向こう3ヶ月の見通し

景気の底を打ったとはいえ、厳しい状況が続く見通しである。前年度と同じ水準で推移すればありがたいと感じている。前述の商品券に期待している。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)



(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月~6月 に比べて	前期比 平成21年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-80.0	-60.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-80.0	-80.0	-60.0
④採算(収益)	-60.0	-60.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-80.0	-60.0

<業況判断DIの推移>

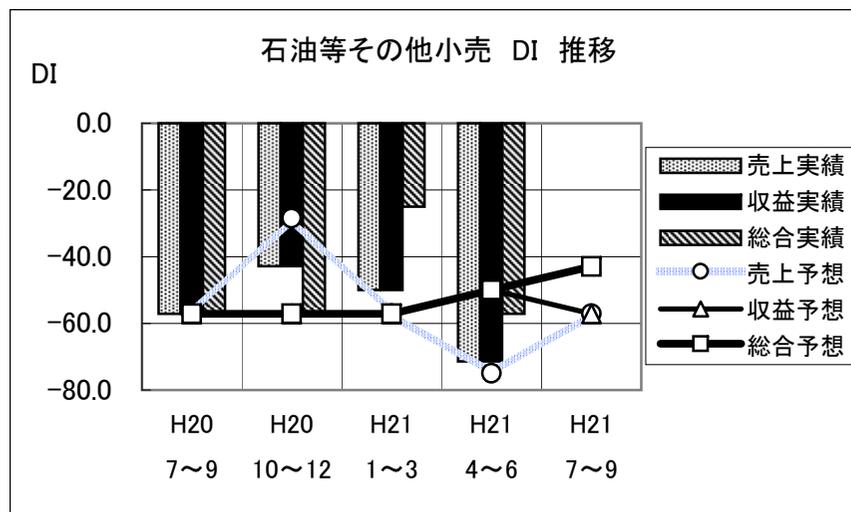
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	16.7	-80.0	-100.0	-80.0	-60.0
収益	-33.3	-60.0	-80.0	-60.0	-60.0
総合	-33.3	-60.0	-100.0	-80.0	-60.0

[石油等その他小売]

WTI原油先物市場は、4月には50ドル前後の下落基調で推移、5月に入り世界的な株価上昇による景気回復期待や米国の原油在庫の減少などから60ドル台で推移した。6月には大手金融機関による原油価格の上昇見通し、また米雇用情勢の改善を示す指標を受けて景気回復期待が一段と強まったことで70ドル越えまで上伸。国内のコスト動向は、4月3.5~5.0円/L、5月4.5円/L弱、6月2.5円/L前後の上昇、灯油の需要期からガソリン需要期に移行する中、ガソリン高が鮮明となってきた。

SS業界においては、こうしたコスト上昇による採算性の悪化が進む中、低マージンであるセルフ化の進行により販売競争は激化しており、ガソリン需要の減退による販売不振がさらに深刻な状況となっている。

(エネルギー部会)



(石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月~6月 に比べて	前期比 平成21年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-71.4	-57.1
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-28.6	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-100.0	-71.4	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-42.8	-28.6	-28.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-85.7	-57.1	-42.9

<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-57.1	-42.8	-50.0	-71.4	-57.1
収益	-57.1	-42.8	-50.0	-71.4	-57.1
総合	-57.1	-57.1	-25.0	-57.1	-42.9

サービス業

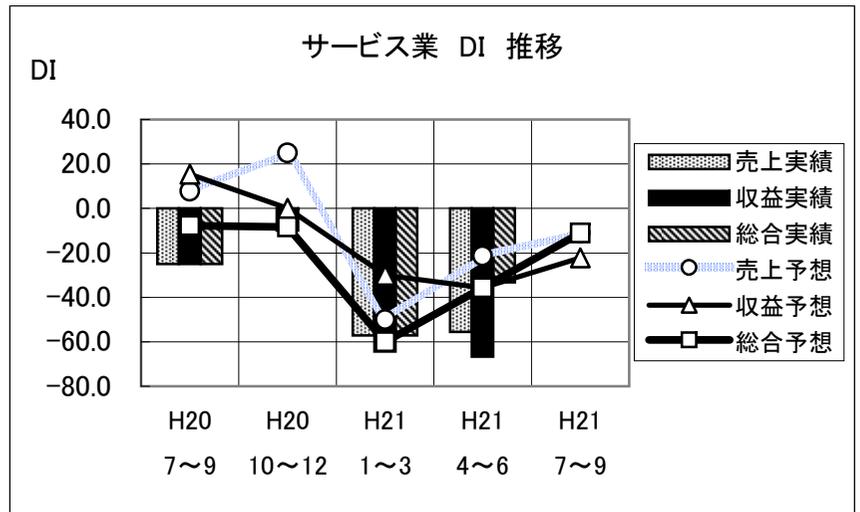
売上DI値は△55.6、前期実績1～3月期(△57.2)に比して1.6ポイントの上昇、収益DI値は△66.7、前期実績1～3月期(△64.3)に比して2.4ポイントの下降、総合判断DI値は△33.3、前期実績1～3月期(△57.2)に比して23.9ポイントの上昇と、売上・総合は改善傾向、収益は悪化傾向である。

見通しとしては、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-44.5	-55.6	-11.1
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-11.1
③資金繰り	-22.2	-44.4	-11.1
④採算(収益)	-44.5	-66.7	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-11.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-25.0	0.0	-57.2	-55.6	-11.1
収益	-25.0	-10.0	-64.3	-66.7	-22.2
総合	-25.0	0.0	-57.2	-33.3	-11.1

[旅館]

今期の現況として、一番影響が大きかったのが新型インフルエンザであった。6月に入り当市にもおよんだが、政府の呼びかけ等もあり、一般消費者は冷静でキャンセルなどはほぼなかったものの、集客力は減った。これに加えてトヨタショックも尾を引いている現状で、悪いことが重なってしまった。休日高速道路1000円、定額給付金等の明るい話題もあるが、上記二つのマイナスが大きくて非常に厳しい状況である。このような景況の中、団体客が減り、ネット系で来る個人客が主流になりつつあると感じている。

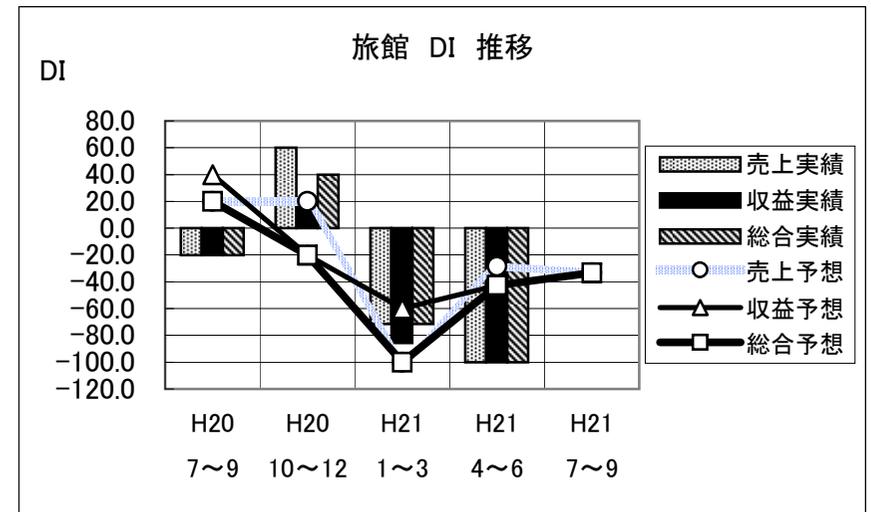
向こう3ヶ月の見通し 夏休みや海水浴など、この時期ならではの期待感はある。しかし新型インフルエンザの脅威やトヨタショックの影響など、厳しい状況が続いていくのは確実である。昨年のこの時期の水準をクリアするという努力目標をもって、頑張っていきたい。

(観光部会)

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-100.0	-33.4
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-66.7	0.0
④採算(収益)	-33.4	-100.0	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-66.7	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.4	-100.0	-33.4



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-20.0	60.0	-71.4	-100.0	-33.4
収益	-20.0	20.0	-85.7	-100.0	-33.4
総合	-20.0	40.0	-71.4	-100.0	-33.4

運輸通信業

売上DI値は△62.5、前期実績1～3月期(△100.0)に比して37.5ポイントの上昇、収益DI値は△75.0、前期実績1～3月期(△100.0)に比して25.0ポイント上昇、総合判断DI値は△62.5、前期実績1～3月期(△100.0)に比して37.5ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

見通しについても、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	-62.5	-37.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-12.5	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-87.5	-75.0	-62.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-62.5	-37.5	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-87.5	-62.5	-37.5

[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係:前期に比して輸出・輸入・国内品の荷動きについても更に減少した。

今後の見通し、在庫調整が進んでいるといわれるが、原料の動きは悪く、港頭在庫には大きな変化は見られず減少傾向が継続すると思われる。

バス業界関係:企業関係の旅行・輸送が不調の中、ツアー参加者数は増加傾向にあり、年輩者等のニーズに合った商品を提供する必要がある。また所得の格差も感じるため格安か高級か商品のメリハリを付けることも必要である。

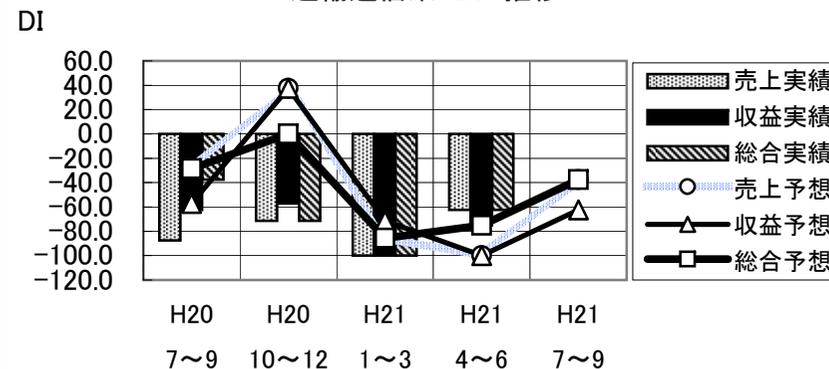
今後の見通し、不透明であるが、例年並みの売上水準と思われる。

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年4月～6月 に比べて	前期比 平成21年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成21年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-71.4	-57.1	-28.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-14.3
④採算(収益)	-85.7	-71.4	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-57.1	-28.6	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-85.7	-57.1	-28.6

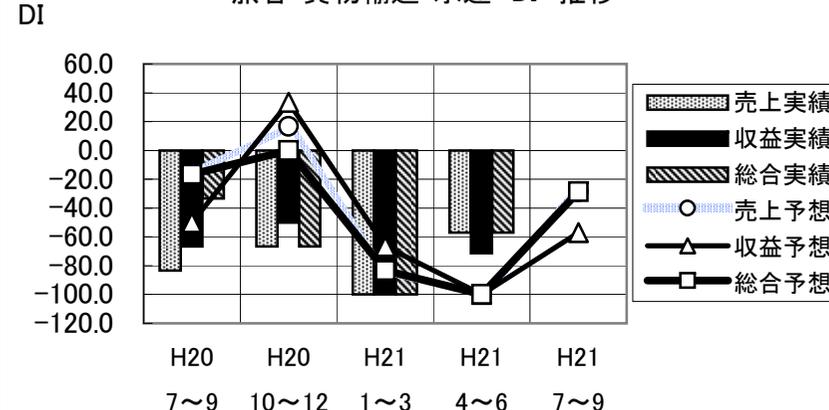
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-87.5	-71.4	-100.0	-62.5	-37.5
収益	-62.5	-57.1	-100.0	-75.0	-62.5
総合	-37.5	-71.4	-100.0	-62.5	-37.5

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

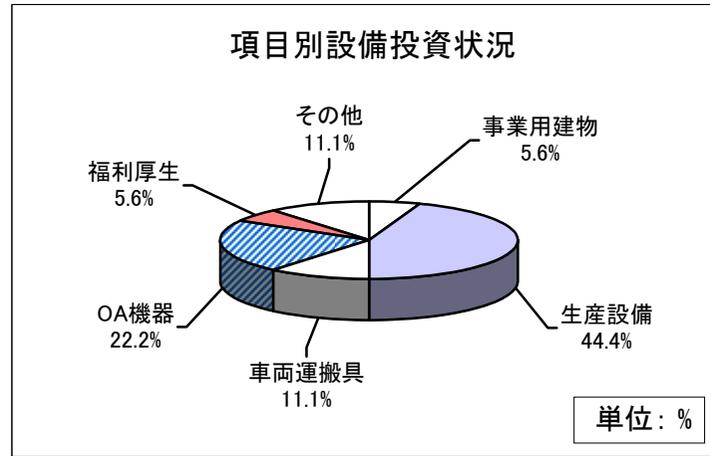
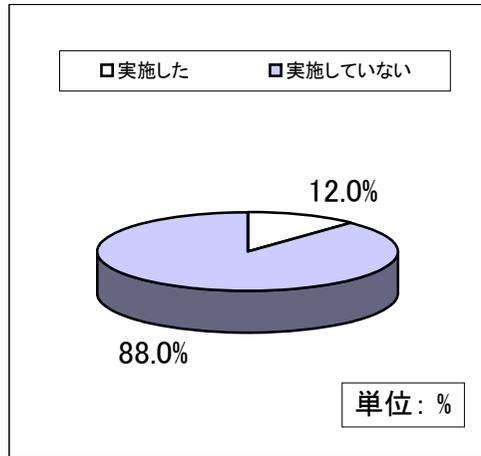


<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-83.3	-66.6	-100.0	-57.1	-28.6
収益	-66.6	-50.0	-100.0	-71.4	-57.1
総合	-33.3	-66.6	-100.0	-57.1	-28.6

7. 設備投資動向

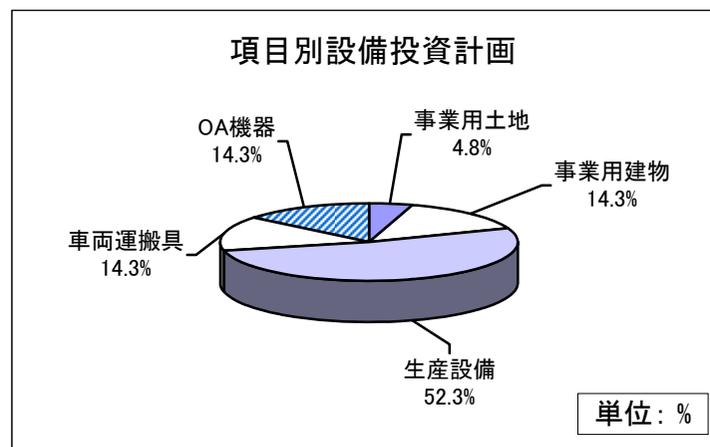
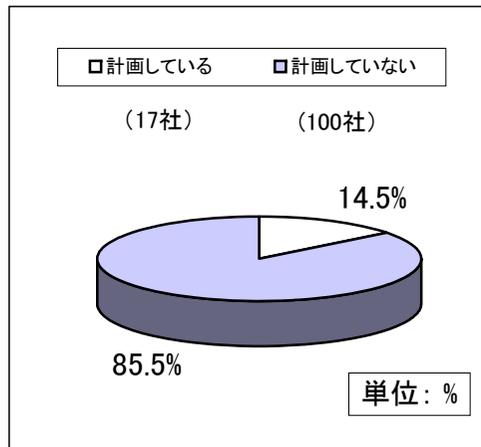
＜今期(H21. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



・H21. 4～6月期に設備投資を実施した企業は、14社(12.0%)あり、項目別には18件ある。そのうち生産設備(44.4%)、OA機器(22.2%)、車両運搬具(11.1%)、事業用建物(5.6%)、福利厚生(5.6%)、その他(11.1%)に投資された。

・H21.7～9月期に設備投資計画のある企業は、17社(14.5%)あり、項目別には21件ある。そのうち、生産設備(52.3%)、車両運搬具(14.3%)、事業用建物(14.3%)、OA機器(14.3%)、事業用土地(4.8%)の投資計画である。

＜来期(H21. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	1
事業用建物	1	3
生産設備	8	11
車両運搬具	2	3
OA機器	4	3
福利厚生	1	0
その他	2	0
計	18	21

(単位: 件)

◎今期(H21.4～6月)、来期(H21.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H21. 4～6月)	14	7	1	1	2	3	0
2. 来期 (H21. 7～9月)	17	9	0	1	3	3	1

(単位: 事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 117 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	108 92.3%
2	利幅の縮小	68 58.1%
3	競争激化	49 41.9%
4	販売納入先からの値下げ要請	20 17.1%
5	消費者ニーズの変化の対応	18 15.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、上位1位～5位について前回と全く同じ項目順位であった。

・業種別経営上の問題点では、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業では1位に売上の停滞減少をあげ、運輸通信業では利幅の縮小をあげている。

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 44 社 40 社 90.9%	利幅の縮小 26 社 59.1%	競争激化 18 社 40.9%
建設業	売上の停滞・減少 10 社 10 社 100.0%	利幅の縮小 9 社 90.0%	競争激化 8 社 80.0%
卸売業	売上の停滞・減少 20 社 19 社 95.0%	利幅の縮小 9 社 45.0%	競争激化 6 社 30.0%
小売業	売上の停滞・減少 26 社 25 社 96.2%	利幅の縮小 15 社 57.7%	競争激化 11 社 42.3%
サービス業	売上の停滞・減少 9 社 8 社 88.9%	競争激化 5 社 55.6%	消費者ニーズの変化の対応 4 社 44.4%
運輸通信業	利幅の縮小 8 社 7 社 87.5%	売上の停滞・減少 6 社 75.0%	販売納入先からの値下げ要請 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.43

番号	調査項目	単位	H21. 7報告	基準日	H21. 4報告	基準日	H21. 1報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,512	H21.7.1	81,515	H21.4.1	81,458	H21.1.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	28,916	H21.7.1	28,838	H21.4.1	28,730	H21.1.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	52,212	H21.7.1	52,278	H21.4.1	52,357	H21.1.1	市民課
4	外国人登録者数	人	2,146	H21.7.1	2,213	H21.4.1	2,319	H21.1.1	〃
5	建築確認届出件数	件	92	H21.3～H21.5月	112	H20.12～H21.2月	116	H20.9～H20.11月	建築住宅課受付件数
6	全国完全失業率	%	5.2	H21.5月	4.4	H21.2月	4.0	H20.11月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.9	H21.1～3月	2.9	H20.10～12月	2.8	H20.7～9月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.44	H21.5月	0.59	H21.2月	0.76	H20.11月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.24	H21.5月	0.39	H21.2月	0.84	H20.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所(業務月報より)

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費		
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車販売台数 (万台)	
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7	
1997年度	236	3.5	0.69	▲3.9	1,341,347	520	0.2	▲0.2	672.5	
1998年度	294	4.3	0.5	▲18.6	1,179,536	514	▲0.8	▲0.8	587.9	
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	▲1.8	586.1	
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	513	3.0	▲1.2	596.3	
2001年度	平均	340	5.0	0.59	▲12.6	1,173,170	492.3	▲0.8	▲3.4	582.5
2002年度		359	5.4	0.54	▲3.7	1,145,553	489.9	▲0.8	▲0.6	586.8
2003年度		350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	493.7	2.1	▲0.2	589.1
2004年度		313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.5	2.0	0.4	582.1
2005年度		294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	503.2	2.3	▲0.4	586.2
2006年度		275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	510.9	2.3	▲2.2	561.9
2007年1月		264	4.0	1.06	2.6	92,219	518.6	4.6	0.6	37.1
2月	270	4.0	1.05	▲4.2	87,360	0.1			1.3	50.5
3月	281	4.0	1.05	▲5.8	99,488	515.3	▲0.1	0.1	76.7	
4月	268	3.8	1.05	▲9.0	107,255			1.1	35.8	
5月	258	3.8	1.06	▲3.1	97,076			0.4	37.9	
6月	241	3.7	1.07	▲17.9	121,149	512.7	0.6	0.1	46.2	
7月	234	3.6	1.06	8.0	81,714			▲0.1	43.9	
8月	249	3.8	1.05	▲2.6	63,076	515.5	2.6	1.6	34.7	
9月	269	4.0	1.04	▲7.0	63,018			3.2	50.0	
10月	271	3.9	1.02	3.3	76,920			0.6	40.6	
11月	246	3.8	1.00	0.9	84,252	520.4	1.5	▲0.6	45.1	
12月	231	3.8	0.98	▲3.3	87,214			2.2	36.8	
2008年1月	256	3.8	0.98	11.4	86,971	510.9	* ▲2.2	3.6	37.7	
2月	266	3.9	0.98	2.4	82,962			0.0	50.3	
3月	268	3.8	0.95	▲6.2	83,991	* 502.3	* ▲2.9	▲1.6	73.1	
4月	275	4.0	0.93	0.5	97,930			▲2.7	36.9	
5月	270	4.0	0.93	5.1	90,804	* 502.3	* ▲2.9	▲3.2	36.1	
6月	265	4.1	0.90	9.7	100,929			▲1.8	44.7	
7月	256	4.0	0.88	▲4.7	97,212	* 495.7	* ▲13.5	▲0.5	45.5	
8月	272	4.1	0.85	▲13.0	96,905			▲4.0	31.0	
9月	270	4.0	0.83	▲4.2	97,184	* 482.3	* ▲14.2	▲2.3	47.7	
10月	255	3.8	0.80	▲15.5	92,123			▲3.8	37.9	
11月	256	4.0	0.76	▲27.7	84,277	* 482.3	* ▲14.2	▲0.5	36.9	
12月	270	4.3	0.73	▲26.8	82,197			▲4.6	30.6	
2009年1月	277	4.1	0.67	▲39.5	70,688	—	—	▲5.9	30.2	
2月	299	4.4	0.59	▲30.1	62,303			▲3.5	38.1	
3月	335	4.8	0.52	▲22.2	66,628	—	—	▲0.4	54.6	
4月	346	5.0	0.46	▲32.8	66,198			▲1.3	28.4	
5月	347	5.2	0.44	—	62,805	—	—	0.3	29.2	

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

*は速報値(内閣府)